

みんなの想いで、
未来を紡ごう。



綿花栽培を通じた地域発信の場づくり。いわきおてんとSUN企業組合（福島県・いわき市）

■ **コットンで、未来を切り拓こう。** 福島県いわき市。東日本大震災をきっかけにこの地に生まれたのが「いわきおてんとSUN企業組合」です。自らの手で、新しい未来を。そんな想いを胸に始まった組合の活動のひとつが「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」でした。なぜコットンだったのか、その理由を代表理事の吉田さんはこう語ります。「震災直後、お米や野菜などの農作物は売れなくなりました。そこで口に入れない農作物としてコットンを選んだのです」地域の農家が無農業にこだわって育てた綿花を商品化して販売、その利益を再び農家に還元することを目指すこのプロジェクト。「ふくしま潮目」というオリジナル商品ブランドの立ち上げや、想いに賛同する企業による商品化などを通して、いわき産のコットンが日本中へ広がりはじめました。

■ **くり返し訪れたいくなる体験を。** さらに、綿花畑での農業体験ツアーの実施でこの地に新しい人のつながりも生まれているといいます。しかし、まだ課題も多いと語るのは担当の松本さん。「いちばんの課題は事業としての自立です。これまでは企業や団体の方にボランティアという立場で参加してもらっていましたが、今後は地域との交流やいわきのさまざまな農業を楽しめる体験ツアーなど、ここを何度も訪れたいくなる新しい魅力づくりに取り組みたいです」綿つみ体験などの定期的なイベントに加え、地域の古民家再生や農家と連携した幅広い農業体験を組み合わせ、ここでしか味わえない体験を届けたいと語ります。そのために松本さんは全国を巡って地域活性化の成功事例を視察し、そのノウハウを積極的にいわきに取り入れようとしています。

■ **いわきの農家に、希望を届けたい。** 震災後、農家が自信を失う姿をたくさん見てきたという吉田さん。「プロジェクトを通していわきの農家を訪れてくれた人たちが、農業って楽しいと笑顔になってくれる。目の前で美味しいと言ってくれる。そんな経験をするたび、農家の方々が元気になっていくのがわかるんです。だからこそ、そういう機会をもっと増やしていきたいです」地域の新しい未来をつくり出す活動はまだ始まったばかり。しかし、このプロジェクトがいわきの農業にとって希望の種であることは間違いありません。



一般社団法人
農林水産業みらい基金

未来は、いつだって、現場から生まれる。私たち農林水産業みらい基金は、JA（農業協同組合）・JF（漁業協同組合）・JForest（森林組合）グループの一員である農林中央金庫によって設立されました。

詳しくは [農林水産業みらい基金](http://www.miraikikin.org/) 検索
<http://www.miraikikin.org/>

